

言葉の力

学校長 森 愛 子

言葉には力があります。だからこそ穏やかに話す人になりましょう。

これは、国際手話通訳として、過疎地の人々のよりどころとして、真摯に活動を続けている 郡 美矢 さんの著書「あなたは見えないところで愛されている」にある言葉です。郡さんは、日本では数少ないすぐれた国際手話通訳者のひとりであり、公用手話の国際手話のほかに4カ国語の手話に精通されています。アメリカの大学院を卒業後、ろう者クリスチャン劇団の一員としてアメリカ国内を始め、世界各国で公演を重ねました。現在は、広島、兵庫の教会で、郡さんを慕いやってくる人たちに話をしたり、お年寄りやろうの方々へ振動と身振りで歌う賛美歌を教えたりしていて、「但馬のウービー・ゴールドバーグ」と呼ばれているそうです。

「耳が聞こえないのは天から与えられた私の個性、存分にその個性を利用しなくては」と常に前向きな郡さんの明るい人柄と企画力に惹かれ、過疎のため孤立しがちだったお年寄りや障害をもつ人たちが教会に集まる姿は、NHKスペシャルなどでも取り上げられました。

やわらかな言葉は怒りを鎮める。激しい言葉は怒りを引き起こす。

著書の中のこの言葉に、我が身を振り返り、考えさせられました。子どもの頃から自己主張が強く、口げんかでは負けたことがない私でしたが、母親からは、常に「おまえは言葉がきつすぎる」「相手の気持ちを考えなさい」とたしなめられていました。授業中は、積極的に発言するので教師には誉められつつも、通知票には「思いやりをもちましょう」と書かれる始末。そんな私も、教師となり、目の前の子どもたちから学び、先輩方から育てられ、少しは穏やかな話し方ができるようになったと思っています。それでも、自分の主張があるときには、つい厳しい言い方になってしまうことがあるので、「穏やかに話す」は終生の課題かもしれません。

いくら主張が正しくても、激しい言葉を使うことで、相手が傷ついたり、お互い怒ったりでは、内容が入っていきませんし、話し合いにもなりません。子どもや若者の言葉遣いを問題にすることは多いですが、激しい言葉、きつい言葉が無意識に使っているのは、子どもも大人も同じではないでしょうか。

自分の口から出た言葉を振り返り、やわらかな言葉を使える人に近づきたいものだと考えています。

